

令和6年度 札幌市個別避難計画推進事業

わたしの避難準備シート （個別避難計画）作成 モデル実施【南区】説明会

札幌市保健福祉局

SAPP_R0



本日の流れ

- 1 個別避難計画とは
- 2 作成の進め方
- 3 提出・報告・報酬請求
- 4 説明会後の流れ
質疑応答

1 個別避難計画とは

背景～大規模災害の被災状況

内閣府「令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の
避難のあり方について（最終とりまとめ）」（令和2年12月）

令和元年(2019年) 台風第19号

●全体死者数のうち高齢者約 6 5 %

令和 2 年(2020年) 7 月豪雨

●全体死者数のうち高齢者約 7 9 %



要配慮者が高い割合で犠牲に
犠牲を防ぐ対策が全国的に急務に

5 背景～要配慮者の犠牲の原因

内閣府「令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の
避難のあり方について（最終とりまとめ）」（令和2年12月）

実は、**屋内**での被害が多い

「なぜ避難しなかったのか？」

（当事者の声）

- 「避難場所を知らない」
- 「避難するタイミングがわからない」



「逃げ遅れ」に原因

- ・ 道内でも激しい雨が降る頻度が増加
- ・ 道外のような洪水や土砂災害の危険性が全くないとは言い切れない



「正常性バイアス」とは (Wikipediaより)

- 自分にとって都合の悪い情報を無視したり過小評価したりする人間の特性。
- 災害といった身の危険が予想される状況でも「今回は大丈夫」「過去にそう
いったことがない」「まだ大丈夫」などして、逃げ遅れの原因となる。

背景～社会変化の影響

独居高齢者災害の備えに遅れ

24年版白書「何もせず」27%

政府は2024年版の高齢社会白書を閣議決定した。65歳以上を対象に地震や風水害の防災に関して尋ねた結果、1人暮らしの人はそれ以外と比べ、備えが遅れる傾向にあるとの調査データを盛り込んだ。白書は「増加が見込まれる1人暮らしの高齢者に配慮した対策の推進が重要」と指摘した。

調査は内閣府が23年10～11月に実施し、2677人から有効回答を得た。うち1人暮らしは537人。災害への備えを複数回答で尋ねると「学校や公園など避難する場

ことも家庭庁は、日本、米国など5カ国の若者を対象とする意識調査の結果を公表した。結婚観について、日本は「結婚すべきだ」「結婚した方がよい」と答えた割合が計45・0%。前回2018年度調査から5・9ポイント下がり、5カ国の中で最も低かった。「結婚しない方がよい」は計42・0%で前回から6・6ポイント上昇

「結婚すべきだ」
日本の若者否定的?

5カ国はほかにドイツ、フランス、スウェーデン。各国の13～29歳を対象に昨年11～12月、インターネットを通じて調査。各国約千人から回答を得た。

「結婚すべきだ」「結婚した方がよい」の合計はドイツが57・9%で最

「ハザードマップなどの情報を入手している」は、1人暮らしで30・5%に対し、それ以外は38・4%。一方で「特に何もしていない」は1人暮らしで27・2%で、それ

65歳以上全体で見ると、避難場所の決定やハザードマップなどの入手と答えた割合は、前回18年調査と比べ、いずれも増加。相次ぐ大規模災害を受け、防災意識が底上げされたとみられる。

以外の19・8%より高かった。

- 高齡化・核家族化
 - ・ 独居者等の防災意識の低下、災害情報弱者の増加
- 地域コミュニティの変化
 - ・ 近所付き合いの希薄化による共助力の低下

平成30年7月西日本豪雨 岡山県倉敷市真備地区



(Yahoo!ニュース 令和6年7月8日より)

- 全体の死者数：51人 ※災害関連死を除く
- うち要支援者：42人 **約8割を占める**

＜事例＞ 夫婦2人暮らし、寝たきりの妻を77歳の夫が介護

- ・ (夫) 災害発生当初は、逃げるという考えがない妻と「どのように」「どこに」避難すれば？と思い、2人で自宅にとどまることを選択。
- ・ 孫からの電話により避難を決断し、妻と車で高台に避難し助かった。
- ・ 今から思えば、自宅にとどまれば、自分は助かっていても妻は水に浸かって犠牲になっていたかもしれない。今回災害に遭うまで、避難経路や相談先について考えたことはなかった。突発的に発生する地震は別としても、日ごろから災害時の避難を考えておくことが大切と思った。

今後の災害対策のあり方（国の報告）

中央防災会議防災対策実行会議「平成30年7月豪雨を踏まえた
水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）」（平成30年12月）

突発的に発生し激甚化する災害に対し、
従来の行政主導による対策だけでは災害
による犠牲を防ぎきれない。



内閣府防災担当
「避難情報に関するガイドライン」

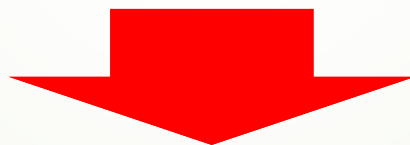
住民は「自らの命は自らが守る」意識を
もって、自らの判断で避難行動をとると
いう、住民主体の取組強化による防災意
識の高い社会の構築を目指す必要がある。

平成25年 災害対策基本法改正

避難行動要支援者名簿

の作成が市町村に義務化

- 避難行動要支援者とは
災害時の避難に特に支援を必要とする方



名簿情報は、本人の同意が得られれば
町内会等の地域団体に提供できる。

(地域の団体からの申請が必要)

避難行動要支援者（札幌市定義）

- 要介護の認定を受けている方
- 居宅介護、重度訪問介護、重度障害者等包括支援、行動援護、同行援護、生活介護、共同生活援助、移動支援の障がい福祉サービス支給決定を受けている方
- 身体障害者手帳1～2級を所持している方
- 視覚障がい・聴覚障がいのある方
- 療育手帳Aを所持している方
- 精神障害者保健福祉手帳1級を所持している方
- その他市長が特に必要と認めた方
（指定難病等のうち特に支援が必要な方など）

※市で保有する介護や障がい等のデータにもとづき上記に該当する方の名簿を作成。

要配慮者と避難行動要支援者

要配慮者

災害時に配慮が必要な方
(高齢者、障がいのある方、妊産婦など)

避難行動要支援者

災害時の避難に特に支援が必要な方

札幌市の名簿作成・提供状況

H27から名簿を作成・町内会等の地域への提供を開始。

地域の助け合いによる避難支援の取り組みを推進。

<札幌市の名簿掲載対象者>

118,943人（令和6年1月1日時点）

※名簿提供団体70団体（単町・連町・地区社協・MS管理組合等）

※提供地域内の個人情報提供同意者数4,118人

避難行動要支援者の

避難行動支援に関する取組指針

(H25災対法改正に伴い、市町村を対象に
その事務に係る取り組む方法を指針として示したもの)

さらなる避難行動支援のため

地域の特性や実情をふまえて、
具体的な避難方法等について

「個別計画（個別避難計画）」
の作成がのぞましい。

個別避難計画とは

災害時にお一人では避難することが困難な方ひとりひとりについて

- どこに避難するか（避難場所）
- 避難時にどんな配慮が必要か
- 誰が支援するか（支援者）

などを災害時に備えてあらかじめ記載したもの

★災害の中でも、特に土砂災害や風水害といった事前予見、避難準備が可能な災害において有効な取り組みとされています。

これまでの個別避難計画の推進

- 地域への名簿提供の際、
名簿掲載者一人ひとりについて
個別避難計画作成の協力を依頼

⇒ 「地域」の手による
個別避難計画の作成を推進

★ 個別避難計画は行政の定める
各種の計画とは性質が異なる
⇒ 住民自身や家族で作成が可能

名簿制度開始以降の全国的な状況

- その後の豪雨災害においても
要配慮者の犠牲が減らない・・・
- 地域への名簿提供も
思ったように進まず・・・



地域への名簿提供のみでは
激甚化する災害には対応しきれない

令和3年5月 災害対策基本法改正

「避難行動要支援者名簿」

掲載者のうち、
作成の同意を得られた方について
個別避難計画の作成が
市町村の努力義務に

※あわせて「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」も改定

R3年 取組指針改定のポイント①

計画作成を早期に進めるため、

優先度の高い避難行動要支援者の
範囲を定め、おおむね5年程度
作成に取り組むこと

<優先度の高い方（国の例示）>

要介護度3～5の高齢者等自ら避難することが困難な方のうち、
ハザードマップで危険な区域に住む方など、地方公共団体
において優先度が高いと判断する者

※札幌市の優先度設定は現在、検討中です。

R3年 取組指針改定のポイント②

計画作成にあたっては要支援者の状況を日頃からよく知り、信頼関係も期待できる福祉専門職（ケアマネジャー、相談支援専門員等）の参画が極めて重要

★全国の市町村でも、福祉専門職の皆様のご協力を得ての計画作成の取組みが続々と始まっています。

法改正や国の指針をふまえての 札幌市の今後の計画作成の推進

● 名簿の地域への提供による作成

+ に加えて・・・

● 行政主導による新たな仕組みにより、
福祉専門職等の皆様のご協力を得て
作成

★ 上記 2つの取組を主軸として
推進してまいりたいと考えております。

札幌市の取組・検討状況①

● 試行実施（R 5 年度）

作成手順や課題を具体的に把握するため、災害危険区域等に居住する重度の対象者を選定、**日ごろから対象者を担当**されている**福祉専門職の方にご協力いただき**、14件の個別避難計画を試行的に作成。

<試行実施で把握された主な課題>

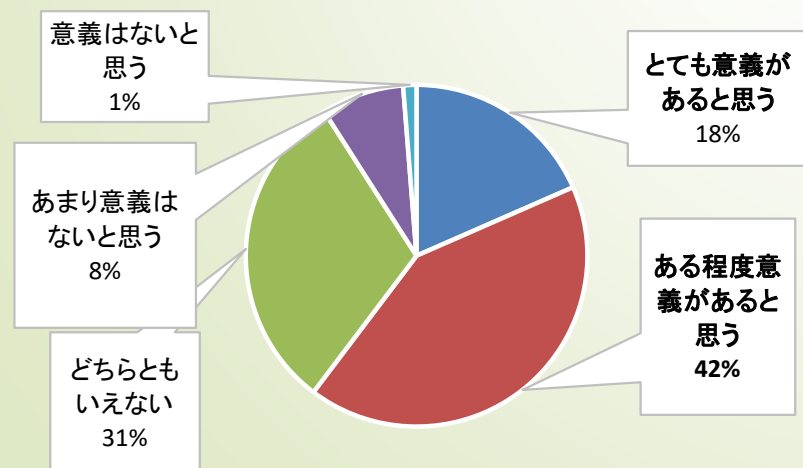
- ・ 個別避難計画**制度の認知度の低さ**
- ・ **防災知識の不足、作業時間の確保**

札幌市の取組・検討状況②

● 福祉事業所の意識調査（R5年度）

試行実施で把握された課題をふまえ、市内の居宅介護・相談支援事業所（約600）における「制度の認知度」「参画への意識」などを把握し、今後の事業実施体制の検討に活用するため実施。

●福祉専門職が災害時の
避難プランを作成する意義について



★ 6割の事業所が
自らが計画作成に関わることについて
「意義がある」と回答

＜協力が難しい理由＞

- ・ 作業時間の確保困難、防災知識不足

＜行政にのぞまれる支援＞

- ・ マニュアルの作成、研修会の開催

今後の札幌市の取組予定

● モデル実施（前・後期）

後期：南区（藤野・藻岩・南沢）、豊平区の一部



モデル実施の結果検証を通じて

● 計画作成の優先度設定の検討

● 事業実施・推進体制の検討



★ R 7 年度 本格的に事業開始予定

2 作成の進め方

わたしの避難準備シートとは

個別避難計画とは、避難行動要支援者お一人おひとりの状況にあわせて、避難時の配慮事項や避難先、必要な支援等を記載した計画

★札幌市では、個別避難計画は対象の方お一人おひとりがご自身のために作成する計画であることをわかりやすくするため、
「わたしの避難準備シート」
という名称で推進してまいります。
※以下「シート」としてご説明します。

シート作成の対象者

札幌市では、国の取組指針にもとづき、
まずは、災害発生時のリスクが高い方からシートの作成を進めていくことを検討
しています。モデル実施では下記の方を
シート作成の対象者と設定します。

＜モデル実施の対象者＞

R 6 避難行動要支援者名簿に登録された方で、以下に該当する方

- 要介護 3 以上または障害支援区分 4 以上
- 想定浸水深3m以上または、氾濫流・河川浸食のおそれのある
区域、土砂災害警戒区域に居住 など

※ただし、施設に入所中や入院中の方は対象外

事前予見・避難準備
が可能な「風水害」
を主な対象とします

作成にあたって

対象者本人・家族にも
積極的に作成に関わって
もらうようにお願いします

手引き
P.3

★福祉専門職の皆様には、本人・家族の
意向をふまえてシート作成を「支援」
する役割（作成支援者）をお願いします。

防災の基本は本人と家族の「自助」にあります。
（自助＝自ら助かろうとする意思や努力）
「災害時に助かろう」という避難の意思が必要

一方で本人や家族だけでは作成が難しい場合も・・・

本人や家族のことをよく知り、信頼関係のある
福祉専門職の皆様の支援が不可欠です。

責任について

●シート作成の目的 （国の取組指針より）

★災害時の避難支援が受けられる可能性を高め
「よりよい避難」を目指すもの
（完璧な内容・100%の実効性を求めるものではない）



- ・避難支援が必ず行われることを保証するものではない。
（支援者自身や家族の安全が前提であり義務はない）
- ・避難の結果について、計画の作成支援者や避難支援者
として記載された方が責任を負うものではない。

作成の流れ

＜各手順で使用する様式＞

手引き
P.7

手引き P.8～

(1)事前の準備

- ・札幌市から受け取った対象者リストを確認
- ・対象者のお住まいのハザード情報を確認
- ・必要書類や聞き取りする事項の事前確認

手引き P.14～

(2)対象者への説明
同意確認

- ・対象者に対し自宅訪問等の機会に併せ、チラシ等を用いて、制度について説明
- ・シートの作成等に関する意向、同意の確認

手引き P.17～

(3)作成

- ・対象者や家族から聞き取った情報でシートを作成

手引き P.29～

(4)確認

- ・作成したシートの内容の確認

手引き P.30～

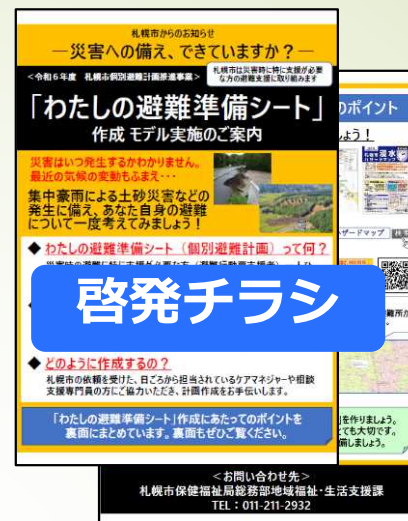
(5)共有

- ・本人、避難支援者、関係機関へのシートの共有
- ・札幌市へのシートの提供、作成報酬の請求

手引き P.33～

(6)保管、管理

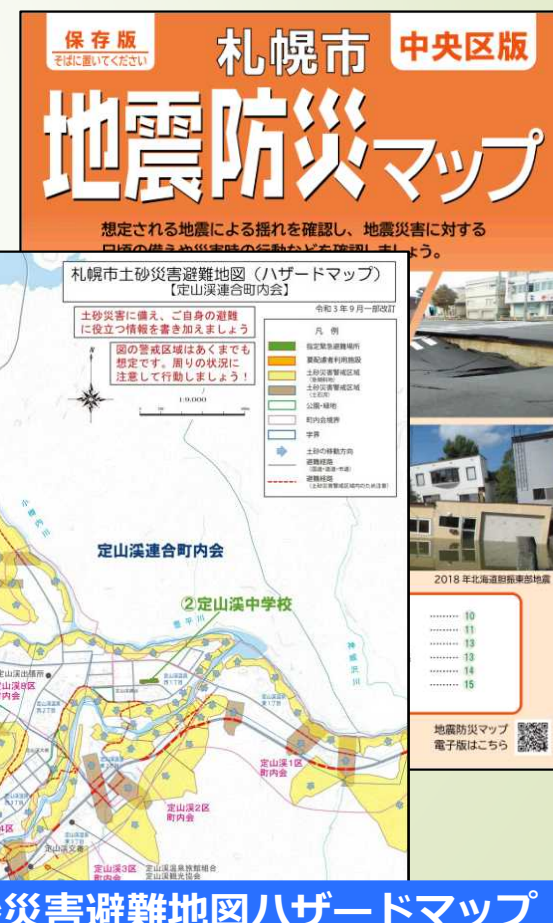
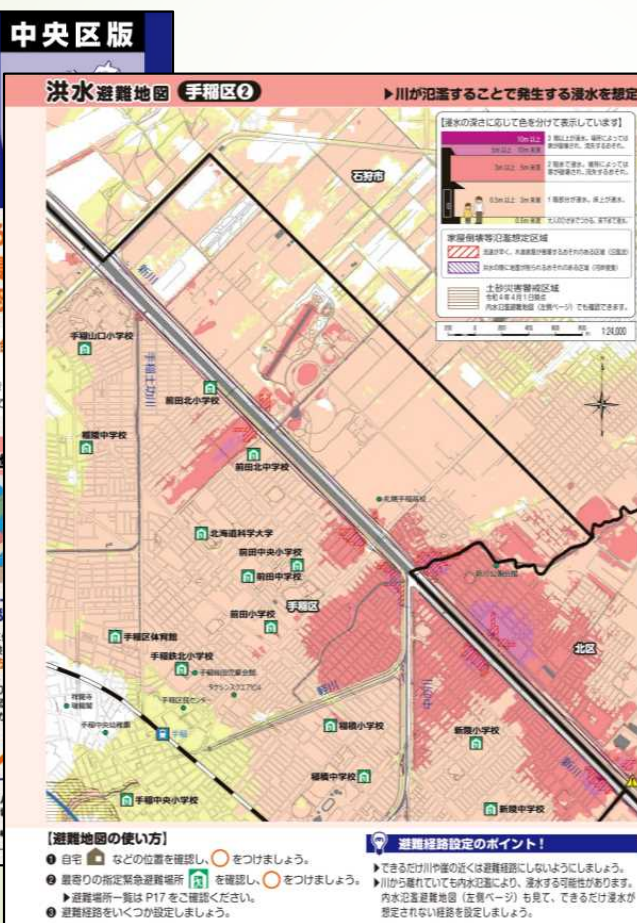
- ・作成したシートの保管、管理



(1) 事前の準備

対象者のハザード状況の確認

対象者のお住まいの災害リスクを
ハザードマップなどで確認します。



土砂災害避難地図ハザードマップ

33 対象者のハザード状況の確認

札幌市公式ホームページからも確認することができます。

★別紙「防災情報（ハザードマップ・避難場所）の確認方法」で手順を詳しくご紹介していますのでご参照ください。

札幌市 避難行動要支援者のための「わたしの避難準備シート（個別避難計画）」
作成の手引き（令和6年度モデル実施）別紙

防災情報（ハザードマップ・避難場所）の確認方法

わたしの避難準備シートの作成にあたっては、対象者のお住まいの地域のハザード状況や避難場所の情報について確認することが必要となります。こうした情報については、札幌市公式ホームページの「札幌市地図情報サービス」、「さっぽろ防災ポータル」において確認することが可能です。

●札幌市公式ホームページ「札幌市地図情報サービス」

URL: <https://www.sonicweb-as.jp/sapporo/>



●札幌市公式ホームページ「さっぽろ防災ポータル」

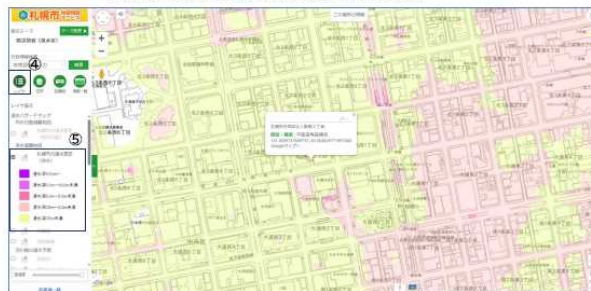
URL: <https://bousai.city.sapporo.jp/>



札幌市 避難行動要支援者のための「わたしの避難準備シート（個別避難計画）」
作成の手引き（令和6年度モデル実施）別紙

④住所選択が完了したら、ページ左部の「レイヤ」を選択。

⑤レイヤ表示の中から「札幌市の浸水想定（洪水）」を選択し、下に示された凡例をもとに浸水想定状況を確認。



⑥「札幌市の浸水想定（洪水）」のチェックを外した後、レイヤ表示の中から「氾濫流」や「河川浸食」、「土砂災害警戒区域・特別警戒区」を選択し、凡例をもとに河川浸食、土砂災害のハザード状況を確認。



札幌市 避難行動要支援者のための「わたしの避難準備シート（個別避難計画）」
作成の手引き（令和6年度モデル実施）別紙

2 さっぽろ防災ポータル

(1)ハザードマップの確認方法

- ①さっぽろ防災ポータルを開き、ページ上部「ハザードマップ」タブを選択。
- ②マップ右上の住所検索欄へ対象者のお住まいの住所を入力。
- ③ページ左部表示情報欄で「洪水浸水想定区域」、「土砂災害警戒区域・特別警戒区」などを選択。



防災・災害情報は
さっぽろ
防災ポータル



34 対象者のハザード状況の確認

今回シートの作成対象とする災害の危険性について

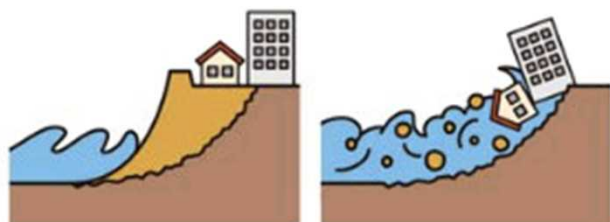
● 洪水

自宅外への避難が必要な場合も



● 氾濫流 川の流が早く、木造家屋は倒壊のおそれ

● 河岸浸食 地面が削られ、造りを問わず家屋倒壊のおそれ



地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

自宅外への避難（立ち退き避難）の検討が必要です

対象者のハザード状況の確認

今回シートの作成対象とする災害の危険性について

●土砂災害

大雨が降った後は要注意！

土石流

山腹や川底の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象



急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)

山の斜面や自然の急傾斜の崖、人工的な造成による斜面が突然崩れ落ちる現象



地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくり斜面下方に移動する現象



★自宅外への避難（立ち退き避難）の検討が必要です

訪問にあたっての事前準備

1 必要な書類を準備

- ・シート様式 ・同意書 ・啓発チラシ ・ハザードマップ

2 対象者ご本人に関する基本情報を確認

- ・フェイスシートなどの活用も検討

3 災害時の避難場所を確認

- ・ハザード状況を踏まえハザードマップ等で確認
- ・自宅からの経路についても確認

★別紙「防災情報（ハザードマップ・避難場所）の確認方法」で手順を詳しくご紹介していますのでご参照ください。



(1) 事前の準備～災害時の避難場所を確認

札幌市の避難所・避難場所

- 指定緊急避難場所
- 基幹避難所



例) 市立小中学校、区体育館など

- ▶ 災害から身を守るために緊急的に避難する場所
- ▶ 災害の種類ごとに指定
- ▶ 危険性がなくなるまで一定期間滞在する役割も

★ 災害種別により開設されない避難所もあります。

施設名・住所	土砂	洪水
盤溪小学校 盤溪 226 番地	×	—
宮の森中学校 宮の森 1 条 16 丁目 5-1	×	×
大倉山小学校 宮の森 3 条 13 丁目 6-20	○	③
宮の森小学校 宮の森 4 条 6 丁目 1-1	○	②



凡 例
○ 対象災害で開設予定のある避難場所
— 対象災害で開設予定のない避難場所
× 危険なため使用できない避難場所
① 全ての階に避難可能
② 2 階以上への避難が必要
③ 3 階以上への避難が必要

対象者宅のもよりの避難所の災害ごとの開設予定や、何階への避難が必要かなどハザードマップや、市HPで確認しておきましょう。

(1) 事前の準備～災害時の避難場所を確認

手引き
P.13

札幌市の避難所・避難場所

● 地域避難所

例) 地区会館、高校など

▶ 基幹避難所を補完

▶ 施設管理者等が状況に応じて開設

● 一時避難場所

例) 公園、市立小中学校のグラウンドなど

▶ 地震発生時に一時避難し身の安全を確保

▶ 地域で一時集合して安否確認等を行う



★災害時には、避難所の開設状況を確認してから避難を開始することが重要です。災害時の避難所の開設状況は「さっぽろ防災ポータル」「市防災アプリ『そなえ』」で確認できます。

要配慮者二次避難所

39

(福祉避難所) について

手引き
P.13



災害時に高齢者施設や障がい福祉施設などに開設

▶一般の避難所での生活が困難な方のための特別な配慮がなされた避難所

▶安全な避難のため開設には
「施設の入所者・
利用者の安全確認」
「施設の建物の被災状況」
「運営スタッフの確保」
などの確認が必要

★災害発生直後に直接避難することはできません。

→最低でも3日は過ごせるよう、ご自身での備えが大切

最近の大規模災害での

福祉避難所の開設状況

「福祉避難所」開設、想定のお2割 能登地震被災7市町、施設損壊

有料記事

2024年1月20日 16:51(1月20日 17:08更新)

あとで読む



石川県珠洲市の避難所で過ごす高齢者＝19日

能登半島地震で死者が出るなど甚大な被害があった石川県内の7市町で、障害者や高齢者ら配慮が必要な人たちが災害時に受け入れる「福祉避難所」の開設が想定のお2割にとどまることが20日、共同通信の集計で分かった。開設する予定だった福祉施設が損壊、断水し、施設の職員が被災、避難して人手が不足したのが主な要因。避難生活の長期化に伴う災害関連死も懸念され、宿泊施設などへの2次避難が進む中、

「災害弱者」への対応が急がれる。

発生から21日で3週間。関係自治体などへの取材によると、福祉避難所に入れずに必要なケアを受けられない人もいるという。2016年の熊本地震で被災した熊本市でも施設の損壊や人手不足で開設は想定のお半数程度だった経緯があり、開設の難しさが改めて浮き彫りとなった。

(北海道新聞 令和6年1月20日掲載)

大規模災害時には、
施設や職員も被災します。

「建物の損壊」や「人手不足」などで、開設が難しい場合も・・・



★日ごろから災害時の避難について、親族や友人知人、普段利用している施設等とよく相談しておくことが大切

(2) 対象者への説明、同意確認

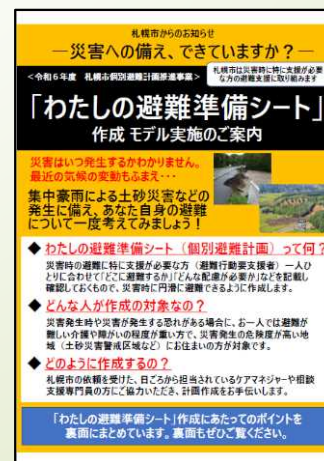
訪問、対象者への説明

★訪問は定期的な訪問（モニタリング）
の機会をご活用ください。

1 わたしの避難準備シートの説明

- ・ 災害時のリスクが高く、作成の対象になっていること
- ・ 市からの協力依頼にもとづいていること
- ・ 作成したシートと同意書は市に提出すること

★説明にあたっては、
「啓発チラシ」をご活用ください。
(説明例も手引きP.14に
掲載していますのでご参考ください)



対象者への同意確認その1

同意書（様式）を
使用してください。
2点について同意
の確認が必要です。

わたしの避難準備シート（個別避難計画）の
作成・個人情報の提供に関する同意書

札幌市長 あて

わたしの避難準備シート（個別避難計画）とは、高齢者や障がいのある方などのうち、災害時に自力で避難することが難しい方（避難行動要支援者）を対象に、災害時に円滑に避難するために、災害時にどのような支援を得て避難行動をとればよいのかということについて、ご本人やご家族の方等が確認しておくために作成・記録するものです。

この同意書は、わたしの避難準備シート（個別避難計画）を作成するかどうかについて意思確認をする書類です。※裏面の留意事項を必ずご確認ください。

私は、以上のことを理解したうえで、

1 わたしの避難準備シートを作成することに

☐ 同意します ☐ 同意しません

→ 2へ → 理由選択の上、署名欄へ

「同意しません」を選んだ理由
☐ 作成の必要性を感じないため
☐ 個人情報の提供に不安があるため
☐ 既に個別避難計画を作成済のため
☐ その他()

2 シートに記載された情報を平常時から、避難支援等関係者に提供することに

☐ 同意します ☐ 同意しません

→ 署名欄へ → 署名欄へ

(本人署名)
氏 名 _____

本人が重度の障がい等により同意に関する判断が困難な場合は、法定代理人や同居の親族など、本人の利益を守る観点から実質的に判断できる方が本人署名を記載しても差し支えありません。代理人の方が本人署名を記載した場合は、下記についても記載してください。

(代理人署名)
代理人住所 _____

代理人氏名 _____ 本人との関係 _____

代理人電話番号 _____

※裏面の留意事項を必ずご確認ください。

★同意確認ポイントその1 シート作成への同意

できるだけ同意いただけるよう
可能な範囲で対象者本人・家族
に働きかけをお願いします。

※同意しない場合は、その理由
を選択・記載してください。

(2) 対象者への説明、同意確認

対象者への同意確認その2

わたしの避難準備シート（個別避難計画）の 作成・個人情報の提供に関する同意書

札幌市長 あて

わたしの避難準備シート（個別避難計画）とは、高齢者や障がいのある方などのうち、災害時に自力で避難することが難しい方（避難行動要支援者）を対象に、災害時に円滑に避難するために、災害時にどのような支援を得て避難行動をとればよいのかということについて、ご本人やご家族の方等が確認しておくために作成・記録するものです。

この同意書は、わたしの避難準備シート（個別避難計画）を作成するかどうかについて意思確認をする書類です。※裏面の留意事項を必ずご確認ください。

私は、以上のことを理解したうえで、

1 わたしの避難準備シートを作成することに

☐ 同意します ☐ 同意しません

→ 2へ

→ 理由選択の上、署名欄へ

「同意しません」を選んだ理由

- ☐ 作成の必要性を感じないため
- ☐ 個人情報の提供に不安があるため
- ☐ 既に個別避難計画を作成済のため
- ☐ その他()

2 シートに記載された情報を平常時から、避難支援等関係者に提供することに

☐ 同意します ☐ 同意しません

→ 署名欄へ

→ 署名欄へ

<注 意>

災害発生時には、シート記載の情報は、**同意の有無にかかわらず**避難支援の実施に必要な**限度で関係機関に共有**する可能性があります。・・・具体的な手順は検討中、また無造作に外部に提供することは考えておりません。

※裏面の留意事項を必ずご確認ください。

★同意確認ポイントその2

シート記載の情報の 平常時の関係機関への 提供への同意

法律上、災害時に支援を受けられる可能性を高めることを目的として、平常時から関係機関（避難支援等関係者）とシートの内容を共有することができます。

●関係機関（避難支援等関係者）とは
＝災害時の避難支援に携わる団体
例）消防、警察、地区民児協、
社会福祉協議会、自主防災組織、
町内会・自治会、連合町内会など

★平常時の外部提供については、**同意しない場合でもシート**の作成は可能です。

(2) 対象者への説明、同意確認 署名と裏面の留意事項

手引き
P.14-15

表面

裏面

わたしの避難準備シート（個別避難計画）の 作成・個人情報の提供に関する同意書

札幌市長 あて

**個人情報の取扱いについて
説明・確認をお願いします。**

この同意書は、わたしの避難準備シート（個別避難計画）を作成するかどうかについて意思確認をする書類です。※裏面の留意事項を必ずご確認ください。

私は、以上のことを理解したうえで、

「同意しません」を選んだ理由
□作成の必要性を感じないため

**同意した場合の効果について
説明・確認をお願いします**

☐ 同意します ☐ 同意しません
→ 署名欄へ → 署名欄へ

(本人署名)
氏名 _____

令和 年 月 日

本人が重症の障がい等により同意に関する判断が困難な場合は、法定代理人や同居の親族など、本人の利益を守る観点から実質的に判断できる方が本人署名を記載しても差し支えありません。代理人の方が本人署名を記載した場合は、下記についても記載してください。

(代理人署名)

代理人住所 _____

代理人氏名 _____

本人との関係 _____

代理人電話番号 _____

※裏面の留意事項を必ずご確認ください。

留意事項

<個人情報の取扱いについて>

表面の「1」に同意された場合、「2」に同意されない場合においても、わたしの避難計画シート（個別避難計画）の作成に必要な限度において、避難を支援する方の候補となる方や、福祉事業者などの関係機関に、あなたの個人情報を提供することがあります。また、わたしの避難準備シート（個別避難計画）の作成後における、シートに記載された情報の取扱いについては、下記のとおりです。

ア 平常時

避難支援等関係者（札幌市の関係機関や、地域で災害時の避難支援に取り組む町内会や地区社会福祉協議会など）に情報を提供します。

ただし、表面の「2」に同意されない場合、または避難を支援する方たちなどが同意しない場合は提供しません。

イ 災害発生時または発生の恐れがあるとき

避難の支援などの実施に必要な限度で避難を支援する方や福祉事業者などの関係機関に情報を提供します。

<同意した場合の効果について>

わたしの避難準備シート（個別避難計画）の作成や情報提供に同意することにより、災害時に避難の支援を受けられる可能性が高くなりますが、災害時には、避難を支援する方たちなど関係者も自分自身や家族の安全が最優先となりますので、シートにもとづく避難支援が必ず行われることを保証するものではありません。また、避難を支援する方たちなど関係者が法的な責任や義務を負うものではありません。

**同意・不同意にかかわらず対象者本人
または代理人の署名をもらってください。**

個別避難計画を 作成済みの方がいた場合

同意確認の中で対象者がすでに、個別避難
計画を作成済みであることが判明した場合

例) 地域の町内会や支援団体等が
自主的に関わり作成している場合 など



シートを作成する必要はありません。

(同意書に「同意しない」旨と「作成済み」である旨記載し、市へ報告をお願いします)

(3) 作成 シートその1 (災害時の避難情報)

手引き
P.17-18
P.27

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

早期時の外部への情報提供		☐ 同意する	☐ 同意しない
フリガナ	生年月日	年	月 日 電話
氏名	年齢	歳	性別 ☐ 男 ☐ 女 FAX
住所			
医療的ケア	☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 ()		
周辺ハザードマップの状況	☐ 0.5m未満 (床下浸水相当) ☐ 0.5m以上~3m未満 (2階床下浸水) ☐ 3m以上~5m未満 ☐ 5m以上~10m未満 ☐ 10m以上 ☐ 土砂災害 (がけ崩れ) 半土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)		
避難場所候補	名称	住所	持ち物
避難方法	警戒レベル1 (早期注意情報)		
避難経路	警戒レベル2 (大雨・洪水注意情報)		
	警戒レベル3・警戒レベル4 (県警等避難/避難指示)		
避難場所候補	名称	住所	配置が必要なもの
避難方法			
避難経路			
避難支援者	氏名	住所	本人との関係
	電話	早期時の外部への情報提供	☐ 同意する ☐ 同意しない
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
	氏名	住所	本人との関係
	電話	早期時の外部への情報提供	☐ 同意する ☐ 同意しない
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
避難場所までの移動	☐ 徒歩 ☐ 道具が必要 ☐ 車いす ☐ つえ ☐ その他 ()		
	☐ 介助が必要 ☐ 体を支える ☐ 見守り ☐ その他 ()		
	移動に使用できる車の有無 ☐ あり 運転手 () ☐ なし		
作成支援者	氏名	所属事業所・団体名	
	電話	FAX	E-mail

● 平常時の外部への情報提供
同意書の「2」の同意状況にもとづき選択してください。

★対象者の基本情報については、本人や家族からの聞き取りや作成済みのフェイスシート等を活用してください。

● 周辺ハザードマップの状況
事前準備で確認した対象者宅の災害状況にもとづき選択・記載してください。

作成支援者となった方の情報の記入をお願いします。

避難の考え方

● 避難＝避難所に行くこと？

【浸水の深さに応じて色を分けて表示しています】

10m 以上	3 階以上が浸水。場所によっては家が破壊され、流失するおそれ。
5m 以上 10m 未満	
3m 以上 5m 未満	2 階まで浸水。場所によっては家が破壊され、流失するおそれ。
0.5m 以上 3m 未満	1 階部分が浸水。床上が浸水。
0.5m 未満	大人のひざまでつかる。床下まで浸水。

3 階以上に上がるか、自宅を出て避難所に避難する必要がある

2 階への垂直避難も有効
(※ただし水・食料等の備えが必要)

一番安心して過ごせるのはご自宅！

★ 避難とは「難を避けること」

対象者のお住まいの状況や災害リスク、災害の状況によっては、必ずしも自宅を出ることが適切な避難ではなく **在宅避難も有効**。

まず在宅避難をベースに考え、日ごろの備えをし、抱える災害リスクや災害の状況をふまえ、適切な避難行動を検討することが重要。

(3) 作成 シートその1 (災害時の避難情報)

避難場所の検討 (風水害)

手引き
P.18

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

早期時の外部への情報提供		☐ 同意する ☐ 同意しない		作成日: 令和 ● 年 ● 月 ● 日	
フリガナ	生年月日	年	月	日	電話
氏名	年齢	歳	性別	☐ 男 ☐ 女	FAX
住所					
医療的ケア ☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 ()					
☐ 透析 ☐ 人工呼吸器 ☐ たん吸引 ☐ 経管栄養 ☐ ストーマ装置					
周辺ハザードマップ ☐ 洪水 (氾濫、河川浸食等) ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m未満 (床下浸水想定) ☐ 0.5m以上~3m未満 (2階床下浸水) ☐ 3m以上~5m未満 ☐ 5m以上~10m未満 ☐ 10m以上					
☐ 土砂災害 (崩壊、土石流等) ☐ 高水かさ (洪水の浸食)					
避難場所候補	名称	住所			
避難方法					
避難経路					
避難場所候補	名称	住所			
避難方法					
避難経路					
住所	本人との関係				
電話	早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない				

★**河岸浸食や土砂災害 (急傾斜地の崩壊等)** のリスクがある対象者については、**自宅を出ての立ち退き避難も選択肢**として検討しておくことが必要。

★ 検討のポイント

事前に確認したもよりの避難所も含め「**そこで難を避けることができるか**」という視点で対象者の心身の状況も考慮し、幅広く検討してください。

● 避難場所となりうる場所 (例)

・ 地域の避難所 (もよりの小中学校等)

⇒ 災害ごとの開設予定を確認

・ 親戚や友人、知人宅

・ 普段通所しているショートステイ先等

⇒ 避難先が風水害時に対象者宅と同様のハザード状況にないことの確認と事前の避難の依頼・調整が必要

・ 自宅の上階 (※) に垂直避難

⇒ 在宅避難をするための備蓄が必要
※今回の作成対象者では**3階以上**

(3) 作成 シートその1 (災害時の避難情報)

避難行動の検討 (風水害)

手引き
P.18-20

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない		作成日: 令和 ● 年 ● 月 ● 日	
フリガナ	生年月日	年	月 日 電話
氏名	年齢	性別 ☐ 男 ☐ 女	FAX
住所			
医療的ケア ☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 ()			
☐ 透析 ☐ 人工呼吸器 ☐ たん吸引 ☐ 経管栄養 ☐ ストーマ装着			
周辺のハザードマップの状況 ☐ 洪水 (氾濫危険、河川浸食等) ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m未満 (床下浸水想定) ☐ 0.5m以上~3m未満 (2階床浸水想定) ☐ 3m以上~5m未満 ☐ 5m以上~10m未満 ☐ 10m以上			
☐ 土砂災害 (がけ崩れ) ※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)			
避難場所	名称	持ち物	
避難方法	避難経路	避難時の共通事項	
警戒レベル1 (早期注意情報) 警戒レベル2 (大雨・洪水注意情報) 警戒レベル3・警戒レベル4 (県庁舎等避難/避難指示)		配置が必要なこと	
避難場所	名称	避難場所	
避難方法	住所	避難方法	

★ 検討のポイント

気象状況や災害予測に応じて段階的に行政から発せられる避難情報 (警戒レベル) に合わせた避難行動を検討してください。

● 警戒レベルごとの行動例は手引きP.19に掲載していますのでご参考ください。

★ 警戒レベル3 or 4

が発令された際に避難

※災害の状況やもよりの河川によっては、避難情報の発令を待たずに避難開始が必要な場合も。

【(参考) 避難情報 警戒レベル】

警戒レベル	避難情報	防災気象情報	状況や必要な行動
5	緊急安全確保	大雨特別警報 洪水特別警報	災害発生またはひっ迫 直ちに身の安全を確保
4	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報	災害の恐れが高い 全員避難が必要
3	高齢者等避難	大雨警報・洪水警報 氾濫警戒情報	災害の恐れあり 避難行動要支援者は避難を開始
2	-	氾濫注意情報 大雨・洪水注意報	気象状況の悪化
1	-	早期注意情報	今後気象状況悪化の恐れ

3 ↑ すみやかに避難を開始

2 ↑ 避難準備、経路・移動方法の確認

1 ↑ 支援者に連絡、気象情報を注視

情報入手について

★気象や災害の情報を入手することは、
避難行動を考える上で特に重要です。

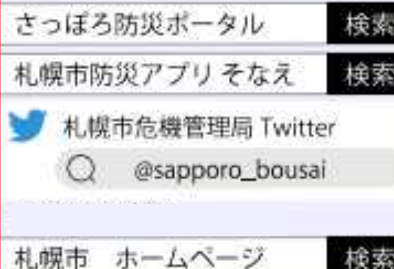
情報を知る手段

川の水位や気象、土砂災害、避難などに関する情報は、テレビやラジオ、インターネットで確認できます。

▶テレビ・ラジオ



▶インターネット



札幌市からの避難情報は緊急速報メールでもお知らせします

緊急速報メールには文字数制限があるため、避難区域の概要のみをお知らせします。

該当区域の方は、テレビ、ラジオ、市のホームページなどで詳細な住所を確認してください。

▶洪水・土砂災害

「住所」、「町名」、「連合町内会」のいずれかで表示

避難情報発令区域の詳細、避難所開設状況は、札幌市ホームページ、さっぽろ防災ポータル、札幌市防災アプリ そなえで確認できます。

緊急速報メールの受信設定や対応機種については、各携帯電話会社へご確認ください。



↑洪水時の例 (町名表示)

↑土砂災害時の例 (町名表示)

<情報入手

検討のポイント>

- ・さまざまな手段がありますが、対象者本人や家族の状況に合った手段・方法を検討する。
- ・避難のタイミングを「誰が判断するのか」「どのように伝えるか」もあわせて検討してください。

警報が出ましたよ。
避難しましょう。

★身近な方の声掛けが
有効とされています



(3) 作成 シートその1 (災害時の避難情報) 避難方法・経路の検討 (風水害)

手引き
P.20

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

平常時の外出への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない		作成日: 令和 ●年●月●日	
フリガナ	生年月日	年	月 日 電話
氏名	年齢	歳	性別 ☐ 男 ☐ 女 FAX
住所			
避難のケア ☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 () ☐ 透析 ☐ 人工呼吸器 ☐ たん吸引 ☐ 経管栄養 ☐ ストーマ装置			
周辺の高さのハザードマップの状況 ☐ 洪水 (1) 氾濫、河川浸食 ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m 未満 (岸下浸水想定) ☐ 0.5m 以上～3m 未満 (2) 陸床下浸水 ☐ 3m 以上～5m 未満 ☐ 5m 以上～10m 未満 ☐ 10m 以上 ☐ 土砂災害 (がけ崩れ) ※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)			
風水害	避難場所	名称	持ち物
	候補	住所	
	避難方法	警戒レベル1 (早期注意情報)	
	避難経路	警戒レベル2 (大雨・洪水注意情報)	
地震	避難場所	名称	配慮が必要な点
	候補	住所	
	避難方法	警戒レベル3/警戒レベル4	
	避難経路		
避難支援者	氏名	住所	本人との関係
	電話	平常時の外出への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない	
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
	氏名	住所	
避難場所までの移動	氏名	住所	本人との関係
	電話	平常時の外出への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない	
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
	氏名	住所	
☐ 徒歩 ☐ 車が必要 ☐ 車いす ☐ つえ ☐ その他 ()			
☐ 介助が必要 ☐ 体を支える ☐ 見守り ☐ その他 ()			
移動に使用できる車の有無 ☐ あり 運転手 () ☐ なし			
作成支援者	氏名	所属事業所・団体名	
	電話	FAX	E-mail

★検討のポイント

対象者の自宅から避難先までの移動方法や経路、付き添う方などを検討してください。

- 避難方法・避難経路の記載例は手引きP.20に掲載していますのでご参考ください。

災害はいつ発生するかわかりません。
在宅中ではなく、施設への通所中に発生する場合も・・・。

週間のスケジュールを考慮し、出先で災害が発生した場合も想定して、避難方法を検討しておくこと、よりよい避難を目指すことのできる内容となります。

福祉避難スペースについて

福祉避難スペースとは？

一般の避難所の滞在スペース（体育館等）で過ごすことが難しい要配慮者のための専用スペース（空き教室等）です。広さやプライバシー等、一定の配慮がされます。

小中学校等



避難所の受付や
運営担当者に
申し出るだけで
利用可能です

※家族等の介助者
の同行が必要

市の避難所の運営においては、要配慮者に
できる限りの配慮をすることとしています。

★避難所に到着してからのことも考慮する場合、
利用を申し出る旨、シートにも記載しておく。

慣れない避難所の中でも
できるだけ安心して過ごすことにつながります。

（３）作成 シートその１（災害時の避難情報） 避難場所・方法等の検討（地震）

手引き
P.18-21

わたしの避難準備シートその１（災害時の避難情報）

早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない 作成日：令和 ●年●月●日

フリガナ 生年月日 年 月 日 電話

氏名 年齢 性別 ☐ 男 ☐ 女 FAX

住所

既患のケガ ☐ なし ☐ あり ありの場合 病名（ ）

周辺の水害の状況 ☐ 洪水（氾濫、河川浸食等） ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m未満（床下浸水想定） ☐ 0.5m以上～3m未満（2階床下浸水）
☐ 3m以上～5m未満 ☐ 5m以上～10m未満 ☐ 10m以上
☐ 土砂災害（がけ崩れ）※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫（浸水の深さ： ）

避難場所候補	名称	住所	持ち物
避難方法 避難経路	警戒レベル1 （早期注意情報）		
	警戒レベル2 （大雨・洪水注意情報）		
	警戒レベル3・警戒レベル4 （県警等避難・避難指示）		

避難場所候補 名称 住所

避難方法 避難経路

避難支援者

住所 本人との関係

電話 早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない

支援内容 ☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い
☐ その他（ ）

住所 本人との関係

電話 早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない

支援内容 ☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い
☐ その他（ ）

避難場所までの移動 ☐ 徒歩 ☐ 道具が必要 ☐ 車いす ☐ つえ ☐ その他（ ）
☐ 介助が必要 ☐ 体を支える ☐ 見守り ☐ その他（ ）

移動に使用できる車の有無 ☐ あり 運転手（ ） ☐ なし

作成支援者 氏名 所属事業所・団体名

電話 FAX E-mail

わたしの避難準備シート（個別避難計画）が特に有効とされるのは、事前予見・避難準備が可能な「風水害」ですが・・・

「地震」を想定した備えも必要

★検討のポイント

事前に避難情報（警戒レベル）は出ませんので、地震発生直後の行動～避難場所までの移動を風水害での記載内容をベースにご検討をお願いします。

地震発生直後は、まずは身の安全を守る

危険がない場合

家屋倒壊のおそれ

自宅内にとどまる

支援者と連絡を取り、
避難先に避難を開始

避難時の持ち物について

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

早期時の外出への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない 作成日: 令和 ● 年 ● 月 ● 日

フリガナ 生年月日 年 月 日 電話

氏名 年齢 歳 性別 ☐ 男 ☐ 女 FAX

住所

医療的ケア ☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 ()

透析 ☐ 人工呼吸器 ☐ たん吸引 ☐ 経管栄養 ☐ ストーマ装置

周辺のハザードマップの状況 ☐ 洪水 (氾濫、河川浸食等) ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m 未満 (床下浸水相当) ☐ 0.5m 以上～3m 未満 (2階床下浸水)

☐ 3m 以上～5m 未満 ☐ 5m 以上～10m 未満 ☐ 10m 以上

☐ 土砂災害 (がけ崩れ) ※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)

避難場所候補	名称	住所	持ち物
避難方法 避難経路	警戒レベル1 (早期注意情報)		
	警戒レベル2 (大雨・洪水注意情報)		
	警戒レベル3/警戒レベル4 (県警等避難/避難指示)		

★避難先で過ごすために
必要な持ち出し品を
記載してください。

●持ち出し品の例は手引きP.22に掲載していますのでご参考ください。

<持ち出し品検討のポイント>

- ・災害時にすぐに持ち出せるようリュック等にまとめておき、保管場所も決めて、家族内で共有しましょう。
- ・在宅避難を想定する場合、最低3日分は、水や食料を準備しておく必要があります。お薬にもある程度余裕があるとよいです。
- ・避難先でも過ごせるように、シートの作成を通じて、不足がないか確認し、補充・備蓄を心がけるようにすることで、よりよい避難につながります。

※医療的ケアが必要な対象者の場合は、一般的な持出品に加え、

- 医療機器の電源の確保
- 医療的ケア物品の準備

などについて、日ごろから備えておくことが特に重要です。対象者の状況に応じて必要な持ち物の検討をお願いします。

避難時の配慮事項について

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

早期時の外部への情報提供		☐ 同意する ☐ 同意しない		作成日: 令和 ●年●月●日	
フリガナ		生年月日		年 月 日 電話	
氏名		年齢		性別 ☐ 男 ☐ 女 FAX	
住所					
医療的ケア		☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 ()			
周辺の見守りマップの状況		☐ 洪水 (河川浸水、河川決壊) ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m 未満 (床下浸水想定) ☐ 0.5m 以上~3m 未満 (2階床下浸水) ☐ 3m 以上~5m 未満 ☐ 5m 以上~10m 未満 ☐ 10m 以上 ☐ 土砂災害 (がけ崩れ) ※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)			
風水害	避難場所候補	名称		住所	
	避難方法 避難経路	警戒レベル1 (早期注意情報)		持ち物	
		警戒レベル2 (大雨・洪水注意情報)		配慮が必要なこと	
		警戒レベル3・警戒レベル4 (県警等避難/避難指示)			
地震	避難場所候補	名称		住所	
	避難方法 避難経路				
避難支援者	氏名	住所	本人との関係		
		電話	早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない		
	氏名	住所	本人との関係		
		電話	早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない		
支援内容		☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()			
避難場所までの移動		☐ 徒歩 ☐ 車が必要 ☐ 車いす ☐ つえ ☐ その他 () ☐ 介助が必要 ☐ 体を支える ☐ 見守り ☐ その他 ()			
移動に使用できる車の有無		☐ あり 運転手 () ☐ なし			
作成支援者	氏名	所属事業所・団体名			
	電話	FAX	E-mail		

★避難の際や避難所内で
配慮が必要となる事柄について記載してください。

●配慮が必要なことの例
(身体面)

- ・立つことや歩行
- ・声や音の聞こえ方
- ・物の見え方

(精神面)

- ・言葉や文字の理解
- ・危険の判断
- ・家族や知人の認識

配慮が必要な**理由**や
必要な**対応**についても
記載してください。

●手引きP.23の記載例も
ご参考ください。

(3) 作成 シートその1 (災害時の避難情報) 避難場所までの移動方法

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない 作成日: 令和 ● 年 ● 月 ● 日

フリガナ 生年月日 年 月 日 電話

氏名 年齢 歳 性別 ☐ 男 ☐ 女 FAX

住所

医療的ケア ☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 ()
☐ 透析 ☐ 人工呼吸器 ☐ たん吸引 ☐ 経管栄養 ☐ ストーマ装置

周辺ハザードマップの状況 ☐ 洪水 (氾濫、河川浸食等) ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m 未満 (床下浸水相当) ☐ 0.5m 以上~3m 未満 (2階床下浸水)
☐ 3m 以上~5m 未満 ☐ 5m 以上~10m 未満 ☐ 10m 以上
☐ 土砂災害 (がけ崩れ) ※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)

避難場所 候補	名称	住所	避難方法 避難経路	避難時の共通事項	持ち物	配慮が必要なこと
風水害	警戒レベル1 (早期注意情報)					
	警戒レベル2 (大雨・洪水注意情報)					
	警戒レベル3/警戒レベル4 (県警等避難/避難指示)					
地震	避難場所 候補	名称	住所			
	避難方法 避難経路					
避難支援者	氏名	住所	本人との関係	早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない	支援内容 ☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
		電話				
	氏名	住所	本人との関係	早期時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない	支援内容 ☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
		電話				
避難場所までの移動				☐ 徒歩 ☐ 道具が必要 ☐ 車いす ☐ つえ ☐ その他 () ☐ 介助が必要 ☐ 体を支える ☐ 見守り ☐ その他 () 移動に使用できる車の有無 ☐ あり 運転手 () ☐ なし		
作成支援者	氏名	所属事業所・団体名	電話	FAX	E-mail	

★避難場所までの移動手段、必要な福祉用具、必要な支援について選択・記載してください。

●移動に使用できる車・運転手については、同居の方、別居の方も含めて検討してください。

避難支援者の検討

● 支援者について

- ・ 支援者による支援は、法的な義務ではなく、必ず実施されることを保証するものではありません。
- ・ 支援の結果について、支援者には法的な責任や義務はありません。
- ・ あくまで支援が受けられる可能性を高めるためにお願いしておくものと考えましょう。
※同意書の裏面にも記載しています。

避難支援者	氏名	住所	本人との関係
	電話番号	平常時の外出への情報提供	☐ 同意する ☐ 同意しない
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い	
	☐ その他 ()		
避難支援者	氏名	住所	本人との関係
	電話番号	平常時の外出への情報提供	☐ 同意する ☐ 同意しない
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い	
	☐ その他 ()		

支援者としてシートに記載することの確認も本人や家族を通じて行っていただいて構いません。

★ 検討のポイント

まずは対象者本人の状況をよく知っており、お願いもしやすい、家族や親族（同居・別居含む）での対応を検討します。

家族や親族での対応が難しい場合は・・・

- ・ 友人や知人 日ごろから親しくしており、よく相談に乗ってくれる方など
 - ・ ご近所の方
 - ・ 地域団体（関係性ができている場合）
- を本人や家族から聞き取り検討します。

- ・ サービス提供を行っている事業所
ご協力可能な場合はお願いしますが、シート作成を通じて避難支援すべての対応を事業所の皆様にお願いするものではありません。

(3) 作成 シートその1 (災害時の避難情報) 避難支援者の支援内容

手引き
P.23

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

早期時の外傷への情報提供		☐ 同意する ☐ 同意しない		作成日: 令和 ●年●月●日	
フリガナ	生年月日		年	月	日
氏名	年齢	性別	☐ 男 ☐ 女	FAX	
住所					
既往のケガ	☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 () ☐ 骨折 ☐ 人工呼吸器 ☐ たん吸引 ☐ 経管栄養 ☐ ストーマ装置				
周辺の高さ	☐ 洪水 (氾濫、河川浸食等) ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m 未満 (岸下浸水想定) ☐ 0.5m 以上~3m 未満 (2階床下浸水) ☐ 3m 以上~5m 未満 ☐ 5m 以上~10m 未満 ☐ 10m 以上 ☐ 土砂災害 (がけ崩れ) ※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)				
避難場所	名称	住所			
避難方法	警戒レベル1 (早期注意情報) 警戒レベル2 (大雨・洪水注意情報) 警戒レベル3・警戒レベル4 (県警等避難/避難指示)				
避難経路	避難時の共通事項 配慮が必要なこと				
避難場所	名称	住所			
避難方法					
避難経路					
避難支援者	氏名	住所	本人との関係		
	電話	早期時の外傷への情報提供	☐ 同意する ☐ 同意しない		
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()			
	氏名	住所	本人との関係		
	電話	早期時の外傷への情報提供	☐ 同意する ☐ 同意しない		
	支援内容	☐ 情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()			
避難場所までの移動	☐ 徒歩 ☐ 車が必要 ☐ 車いす ☐ つえ ☐ その他 () ☐ 介助が必要 ☐ 体を支える ☐ 見守り ☐ その他 ()				
移動に使用できる車の有無	☐ あり 運転手 () ☐ なし				
作成支援者	氏名	所属事業所・団体名			
	電話	FAX	E-mail		

★支援者の方にお願ひできる**支援内容**を選択・記載してください。

警報が出ましたよ。
大丈夫ですか？

●支援内容

・情報伝達



避難情報や警報が出たことを伝える

・安否確認

電話や訪問により無事を確認

・避難準備

持ち出し品などの準備を手伝う

・避難付き添い

避難所まで一緒に行く

無理のない、できる範囲で
お願いしましょう

(3) 作成 シートその1 (災害時の避難情報) 支援者情報の外部提供への同意

手引き
P.26

わたしの避難準備シートその1 (災害時の避難情報)

平常時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない		作成日: 令和 ●年●月●日	
フリガナ	生年月日	年	月
氏名	年齢	性別	男 ☐ 女 ☐ FAX
住所			
避難のケア ☐ なし ☐ あり ありの場合 病名 () ☐ 透析 ☐ 人工呼吸器 ☐ たん吸引 ☐ 経管栄養 ☐ ストーマ装置			
周辺のハザードマップの状況 ☐ 洪水 (氾濫流、河川浸食等) ☐ 浸水想定 ☐ 0.5m 未満 (岸下浸水想定) ☐ 0.5m 以上～3m 未満 (2階床下浸水) ☐ 3m 以上～5m 未満 ☐ 5m 以上～10m 未満 ☐ 10m 以上 ☐ 土砂災害 (がけ崩れ) ※土砂災害警戒区域に該当 ☐ 内水氾濫 (浸水の深さ:)			
避難場所	名称		

平常時の外部への情報提供について、
同意の確認をお願いします。
(口頭で構いません。本人や家族を通じて支援をお願いする方に確認してもらうようにお願いします)

避難経路	住所	本人との関係
氏名	電話	平常時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない
支援内容	情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
住所	本人との関係	
氏名	電話	平常時の外部への情報提供 ☐ 同意する ☐ 同意しない
支援内容	情報伝達 ☐ 安否確認 ☐ 避難準備 ☐ 避難付き添い ☐ その他 ()	
☐ 徒歩 ☐ 道具が必要 ☐ 車いす ☐ つえ ☐ その他 ()		
☐ 介助が必要 ☐ 体を支える ☐ 見守り ☐ その他 ()		
移動に使用できる車の有無 ☐ あり 運転手 () ☐ なし		
作成支援者	氏名	所属事業所・団体名
電話	FAX	E-mail

★法律上、災害時に支援を受けられる可能性を高めることを目的として、平常時から関係機関（避難支援等関係者）とシートの内容を共有することができます。

●関係機関（避難支援等関係者）とは
＝災害時の避難支援に携わる団体
例) 市消防局、北海道警察、
地区民生委員児童委員協議会、
社会福祉協議会、自主防災組織、
町内会・自治会、連合町内会など

支援者が情報提供に同意しない場合でも、シートの内容として問題はありません。

<注 意>

災害発生時には、シート記載の情報は、**同意の有無にかかわらず避難支援の実施に必要な限度で関係機関に共有**する可能性があります
が・・・具体的な手順は検討中、また無造作に外部に提供することは考えておりません。

災害時に支援を受けられる 可能性を高めるために

手引き
P.25-26

災害時に近隣の方から支援を受ける
可能性を高めるためには・・・



災害発生時の支援は日常生活
の延長線上にあります。

対象者本人・家族が日ごろのコミュニケー
ションや交流を通じて、自分たちのことを
知ってもらおうよう努めることが大切です。

(あいさつをかわす、地域行事に参加する・・・など)

61 支援者を選定できない場合

支援者が見つからない場合



★支援者の欄は「空欄」で作成して
いただいても構いません。

※この場合、例えばですが、対象者本人や
家族による**自助**を中心としたシート内容
としていただくななどご検討をお願いします。

シートその2 (わたしの情報)

わたしの避難準備シートその2 (わたしの情報)

障害者手帳	☐ なし ☒ あり	身体 () 級 精神 () 級 療育 () 級	障害 変換区分
介護保険	☐ なし ☐ あり	要支援 () 級 要介護 () 級	指定難病 医療受給者証 ☐ なし ☐ あり
福祉 サービスの 利用状況	事業所名	サービスの種類	利用の曜日
事業所の連絡先			
かかりつけの 医療機関	名称	担当医	電話
主な病気			
くすり			
使用中の 医療機器			
日常生活面の 配慮事項	食事	移動	
	トイレ	浴槽	
	着脱	危険 判断	
	入浴	見守り	
	その他		
在宅時に主に 過ごす部屋	日中	夜間	
居住建物	階数	構造	建築年数
居住人数	生活形態	☐ 単身 ☐ 家族と同居 ☐ その他 ()	
緊急時の 連絡先	住所	電話番号	家族構成図
	住所	電話番号	
	住所	電話番号	
	住所	電話番号	

★このシートその2はフェイスシート等の写しの添付により、内容が重複する項目の記載を省略することができます。

★ 記載のポイント

対象者本人の

- ・ 障害者手帳の交付状況
- ・ 介護保険の認定状況
- ・ サービスの利用状況
- ・ 医療情報
- ・ 日常生活面で配慮が必要なこと
- ・ 在宅時の過ごし方や自宅の状況
- ・ 緊急連絡先
- ・ 家族状況

について記載してください。

★シートその2については、事業所で作成済みのフェイスシートやアセスメントシート等の写しを添付していただくことで、内容が重複する項目の記載を省略することができます。

シート内容の確認

★シートはよりよい避難を実現する目的で作成するものであり、100%の実効性を求めるものではありません。

確認のポイント

- 自宅のハザード状況をふまえて安全を確保できる内容となっているか
- 本人や支援者の状況をふまえた無理のない内容となっているか

シートの共有

共有のポイント

- 対象者本人、家族等の避難支援者、作成支援者間で必ずシートの内容を共有し理解を得ておく。
- シートの記載内容は、避難支援等の実施に必要な限度でのみ共有が可能です。
- 法律上、シートの記載内容の情報提供を受けた方には、守秘義務が課されています。

★サービス提供者会議について

避難方法や支援内容の検討、シート内容の共有など、定期的な会議を活用することも含め必要に応じて、開催をご検討ください。

3 提出・報告・報酬請求

市への提出

★提出書類（3点）

☐ わたしの避難準備シート作成報告書

☐ わたしの避難準備シート

☐ わたしの避難準備シート作成・

作成に同意しなかった方について
も提出をお願いします

個人情報提供に関する同意書（原本）

※説明会後おおむね3か月以内にシートを作成後、
1か月以内に市への提出をお願いします。

＜郵送による提出の際のお願い＞

万が一の郵便事故による紛失等の防止のため、

レターパックや**特定記録付郵便**などで送付をお願いします。

市への提出 作成報告書の記入

札幌市長

令和 年 月 日

事業所番号
事業所所在地
事業所名
担当者名
電話番号

わたしの避難準備シート（個別避難計画）作成報告書

「わたしの避難準備シート（個別避難計画）」について、下記のとおり関係書類と合わせて提出します。

記

わたしの避難準備シート（個別避難計画）【写し】	名分
個別避難計画の作成・個人情報の提供に関する同意書【原本】 （作成に不同意であったものも含む）	名分

（作成中記）

	作成対象者 （氏 名）	住 所	作成支援者 （氏 名）	備 考
1				
2				
3				
4				
5				

市に提出する日付を
記入してください。

作成にご協力いただいた事業所の
情報を記入してください。

作成し提出するシートの数、
提出する同意書の数（**不同意分
含む**）を記入してください。

シートを作成し提出する対象者の
「氏名」「住所」「作成支援者」
を記入してください。

●様式とあわせて記載例もお渡し
しておりますのでご参考ください。

報酬について

- ご協力に対する報酬は同意確認を実施していただいた対象者お一人につき7,000円をお支払いします。

★令和7年度以降の報酬の設定は検討中です。

★提出書類

- ☐ 口座振替申出書
(☐ 委任状)

原則として、作成にご協力いただいた事業所を運営する法人（以下、運営法人）の「法人名及び代表者氏名」名義の口座にお振込みいたします。

※振込先に運営法人の法人名及び代表者名義以外の口座を指定する場合のみ提出が必要です。

※作成報告書やシート、
同意書とあわせて提出が可能です。
(郵送の場合は配達記録の残る方法でお願いします)

口座振替申出書の記入

口座振替依頼書

(あて先)

札幌市長

〒
住所

電話番号

法人・団体名

役職名

氏名

印

わたしの避難準備シート（個別避難計画）作成支援協力にかかる報酬支払いに
関し、下記口座への振込を依頼します。

記

振込先 金融機関名	銀行 信金 信組	本店 支店								
預金種目 口座番号	普通 当座 (〇で開んでください)	<table border="1"> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>								
フリガナ 口座名義人										

※振込先は法人・団体名義の口座をご指定ください。

作成にご協力いただいた事業所を運営する法人（以下、運営法人）の情報を記入してください。

運営法人の代表者印（代表取締役、理事長、会長等の表示があるもの）の押印をお願いします。

報酬の振込先口座
（「運営法人および代表者氏名」名義）
の情報を記入してください。

- 様式とあわせて記載例もお渡ししておりますのでご参考ください。

※振込先に運営法人の法人名及び代表者名義以外の口座を指定する場合には委任状の提出が必要です。ご不明な点はお問い合わせください。

シートの保管・管理

保管・管理のポイント

- シートには、個人情報に記載されていますので、慎重な取扱いが必要です。
- シート記載の情報は「**避難支援等の実施に必要な範囲内**でのみ利用可能」「作成に関わった方、提供を受けた方には**法律上の守秘義務**が課されること」に注意が必要。
- 対象者本人・家族は、災害時にすぐに確認できるように、シートをわかりやすい場所に保管。

<シートの**更新**について>

シートの内容を対象者の状況に合わせたものとするためには、定期的な内容の見直しが必要と考えておりますが、更新の詳細については、R7年度予定の本格的な制度開始に向けて現在検討中です。後日あらためてお知らせいたします。

作成したシートの活用

活用のポイント

- シートに記載したとおりに実際に避難が可能か、避難の訓練をしてみることは有効とされています。（経路の確認、課題の把握）
- 災害時の行動や、避難の際の持ち出し品や備蓄について、作成を通じて対象者本人や家族内で話しあってみることも大切です。

シートの作成を通じて

- 対象者・家族自身が自宅のおかれた災害リスクを知る。
- 災害の状況により、避難行動をとる必要があることを理解し、避難の意思をもつ。
- 日ごろから避難場所や経路の確認、持ち出し品などを準備し、災害に備えておく。



これらの取組を通じて・・・

★「自助力」の向上により、災害時の
「よりよい避難」の実現を目指します。

何卒みなさまのご協力をお願いします。

本日の説明会後の流れについて

- ご出席の事業所あてに協力意向を確認するメールを送信します。



- ご協力意向の返信をいただいた事業所あてに対象者の基本情報を添付したメールを送信します。

何卒みなさまのご協力をお願いします。

ご清聴ありがとうございました。

- 各様式（シート、同意書、報告・請求書類など）
 - 手引き、本日の説明資料
- については、下記ＨＰに掲載しております。

＜札幌市公式ホームページ「わたしの避難準備シート モデル実施」＞

<https://www.city.sapporo.jp/fukushi-guide/other/kobetuhinankeikakumodelyoshiki20241212.html>



ご質問は随時お受けしています。
ご不明な点がございましたら
お気軽に下記までお問い合わせください。

＜お問い合わせ先＞
札幌市 保健福祉局 総務部
地域福祉・生活支援課
☎ 011-211-2932

75

4 質疑応答